

## 平成27年第12回花巻市教育委員会議（定例会）議事録

### 1. 開催日時

開会 平成27年10月23日（水） 午前10時00分

閉会 平成27年10月23日（水） 午前11時00分

### 2. 開催場所

石鳥谷総合支所 3-2、3-3会議室

### 3. 出席委員（5名）

委員 照井 善耕（委員長）

委員 中村 弘樹

委員 役重 眞喜子

委員 伊藤 明子

委員 佐藤 勝（教育長）

### 4. 説明のため出席した職員

教育部長 市村 律

教育企画課長 岩間 裕子

小中学校課長 菅野 広紀

こども課長 小田中 清子

文化財課長 千葉 達哉

### 5. 書記

教育企画課 課長補佐 鈴木和志 主任主査兼係長 幅下崇則

上席主任 佐々木晶子（書記）

○照井善耕委員長 只今から、平成27年度第12回花巻市教育委員会議定例会を開会いたします。会議の日時、平成27年10月23日、午前10時、会議の場所、石鳥谷総合支所3-2、3-3会議室。日程第1、会期の決定であります。本日一日とすることにご異議ありませんか。異議なしと認め、本日一日と決定いたします。日程第2、議事に入ります。議案第26号「教育財産の用途廃止に関し議決を求めることについて」を議題といたします。事務局から提案内容の説明を求めます。岩間教育企画課長。

○岩間裕子教育企画課長 議案第26号「教育財産の用途廃止に関し議決を求めることについて」をご説明申し上げます。別紙資料も併せてご覧いただきますようお願いいたします。用途廃止する教育財産は、花巻市石鳥谷町猪鼻第7地割38番地1の八重畑小学校校舎の一部、152㎡であります。八重畑学童クラブは、平成25年4月に開設しましたが、

利用児童数の推移を勘案する必要があるため暫定措置として八重畑振興センターの一部を利用し運営している経緯があります。この度八重畑振興センターから、施設としての本来の機能の回復が必要であるとの申し出がありましたほか、学童の在籍児童数も開設当時の10名から現在では28名となっており、今後も学童クラブに関する需要が見込まれることから、専用施設の速やかな整備が求められております。このことから、児童の健全育成に最適な環境がある学校施設を利用し、放課後児童の保育環境を向上させるため、八重畑小学校の余裕教室を八重畑学童クラブとして利用しようとするものであります。以上で説明を終わりますが、よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○照井善耕委員長 只今、事務局から説明を受けました。本案に関し質疑の方はありませんか。

○役重眞喜子委員 暫定的に振興センターを使っていたということなのですが、振興センターとの利用の調整とか不便の実態がどの程度のものだったのかということと、保護者の方々からは、やはり学校の方が安心だという声があったのかという2点をお伺いします。

○小田中清子こども課長 不便の実態ということですが、振興センターを地域の自治公民館的に使っている部分もありまして、学童の子供達が使っている時間帯がどうしてもダブってしまう状況もありましたし、子供達もその度に部屋を動く、今日はこの部屋、次の日はこちらというような状況もありました。物を常設して置いておく訳にもいかないということで、学童が終わるとまた物をまとめて移動させるという状況がありました。保護者の方々は振興センターの中に体育施設もあるので使い勝手も良く、子供達も喜んで使っていたのですが、そういう実態が見られてきて、やはり専用の施設が必要だという声がありました。一番安心して放課後過ごせる場所ということで学校となったところです。

○役重眞喜子委員 あそこの振興センターは地元の猪鼻自治公民館としても使っていると言いますけれども、振興センターとしての利用がダブるといよりは猪鼻自治公民館としての利用との兼ね合いですか。

○小田中清子こども課長 その方が強いかと感じました。

○照井善耕委員長 今までの場所だと体育館が使えて便利だったということですが、学校を使うことによって学校の体育館は使えるのですか。

○小田中清子こども課長 学校との協議もしておりますけれども、時間帯によって使わせていただく時は申請を出すということにしております。

○照井善耕委員長 雨が降っている時に、振興センターまで行かなければいけないとかということではないんですね。

○小田中清子子ども課長 はい。

○佐藤勝教育長 逆に振興センターも使える。

○照井善耕委員長 校舎と体育館で行き来できないようになっている学校もあるようだけ  
ど。どういう感じになるのでしょうか。

○岩間裕子教育企画課長 扉については基本的に行き来を制限する形となりますので、同  
じように遮断する形をとります。

○照井善耕委員長 他に何かございませんでしょうか。無ければ質疑を終結してよろしい  
でしょうか。それでは質疑を終結いたします。採決いたします。お諮りいたします。議案  
第26号「教育財産の用途廃止に関し議決を求めることについて」を原案のとおり決する  
ことにご異議ありませんか。「異議なし」と認め、議案第26号は原案のとおり議決されま  
した。次、日程第3、報告事項に入ります。事務局から報告をお願いします。菅野小中学  
校課長。

○菅野広紀小中学校課長 平成27年度岩手県中学校新人大会（前期）の結果についてお  
知らせいたします。17日、18日に行われた岩手県中学校新人大会、前期日程競技にお  
いて、花巻市内の中学校の生徒が非常に活躍しました。〈参考〉のところに軟式野球からソ  
フトテニスまで掲載してございます。他にも1位になった学校が今回は多くて、軟式野球  
湯口中、ソフトボール西南中、ハンドボール女子は花巻中、バスケットボール男子が石鳥  
谷中と団体種目4つが1位となっております。陸上に目を向けますと、陸上男子共通4×  
100メートルリレーで石鳥谷中が1位、女子についてもリレーは石鳥谷中が1位、しか  
も大会新ということで花巻市内の中学生、大変運動面において活躍しているという状況で  
あります。以上、報告させていただきます。

○照井善耕委員長 何かご質問、感想等ございますか。

○佐藤勝教育長 後期日程が来月の中旬にありますので、その時はバドミントン、剣道、  
柔道、卓球、バレーの5つです。

○照井善耕委員長 よろしいでしょうか。子供達大活躍ですね。それではその他の報告が  
ございましたら。岩間教育企画課長。

○岩間裕子教育企画課長 それでは私から、第2期花巻市教育振興基本計画の策定状況に  
つきまして、ご報告をさせていただきます。まず、本計画につきましては6月22日に第  
1回総合教育会議を開催いたしまして、その際に策定する計画の骨子をもって教育大綱と

するということ、そして、可能な限り市民の声を反映させてくださいということ、それから、総合教育会議、中間報告を行ってくださいということの申し合わせをしたところでございます。このうち、市民の声の反映につきましては、これまで本年度2回教育振興審議会を開催いたしましてご意見をいただいております。このご意見につきましては資料No.2-2に記載をしております、多様なご意見をいただいているところでございます。その他、市のPTAの理事会構成員の皆様アンケート調査をお願いいたしまして、そのアンケート調査の結果が資料No.2-3にまとめているものでございます。回答欄が空いている学校もございますけれども、いずれ、全ての学校からご回答をいただけるものと思っております。それから10月4日に開催されました子育て講演会、こちらの参加者へのアンケートを行っております。これにつきましては、まだ集計が終わっておりませんので、添付はできておりませんが、こちらのアンケートも実施いたしました。それから、10月6日に開催しました学校保健・安全・給食研究大会の参加者へのアンケートも実施しております、これは資料No.2-4に。これもまだ、分析分類等は行っていないが、このような多数のご意見をいただきました。アンケートの内容につきましては市民の皆様が「教育について日頃感じている不安」それから、「子育てで気を付けていること」「どんな大人になって欲しいか」と思い何を大切に子育てをしているか」「学校や地域に期待すること」等を項目として調査させていただいたということでございまして、内容につきまして、今後精査して計画に反映できる部分について反映して参りたいと思っております。計画の本体の方でございますけれども、関係課の課長をメンバーとする検討会議を年度当初から開催いたしまして、第1章部分から第3章部分までを課長達の会議で策定いたしまして現在は関係課の課長補佐をメンバーとする作業部会の方で第4章の策定を進めている状態でございます。今回お示ししております資料No.2-5でございますが、現時点で検討している内容でございます、今後このアンケートの結果のほか、本日皆様からご意見をいただいたり、総合教育会議でご意見をいただいたり、その後、校長会ともいろいろご意見をいただく機会を持ちながら内容を精査して参りたいと考えております。資料No.2-5の内容をまとめたものが資料No.2-1になります。2-1をご覧いただきたいと思っております。計画につきましては第1章から第6章までと資料編で構成することを予定しております。第1章は「計画の策定にあたって」として、趣旨、位置づけ、期間、手法について記述いたします。計画期間につきましては国の教育改革の動きが激しいこと、市のまちづくり計画の見直し時期等を勘案いたしまして5年間ということで今回は策定したいと考えております。第2章は「本計画の基本目標と基本方針」で、目指す「市の姿」、政策分野、政策別に目指す「市の姿」を記述いたします。この部分につきましては本計画の骨子が市の教育大綱となることから市の総合計画を基本として策定することとしております。第3章は「本市の教育をめぐる現状と課題」ということで、本市教育の特徴と現状と課題、教育改革の動向、東日本大震災についてを大項目として記述しております。現状と課題につきましては、社会的な要素、就学期前、義務教育期、生涯学習、スポーツ、芸術・文化を項目として設定しております。この内容で詳細を組み立てていくことにしております。第4章は「基本方針の実現に向けた取り組み」でございます。これにつきましては1つ目を子育て環境の充実といたしまして、子育て支援の充実、家庭教育力の向上、就学前教育の充実の3項目で

構成する考えでございます。2つ目が学校教育の充実ということで、学力の向上、体力の向上、豊かな人間性の育成、特別支援体制の充実、学校保健の充実、教育環境の充実の6項目で構成する予定としております。3つ目が生涯学習の推進でございます、こちらにつきましては生涯学習の充実、青少年健全育成の推進、国際化の推進の3項目で構成する予定としております。4つ目がスポーツの振興でございます、こちらは生涯スポーツの推進と競技スポーツの推進の2項目で構成いたします。5つ目が芸術・文化の振興ということで、芸術文化活動の推進、先人顕彰、民族芸能の伝承、文化財の保護と活用の4項目で構成する予定としております。第5章につきましては、「市民とともに歩む教育行政改革への取り組み」ということで、教育制度改革の関係と併せまして、教育委員会議の透明化ですとか、ホームページの改定など開かれた教育行政に向けた取り組みについて記述して参りたいと考えております。第6章は「計画の進行管理」ということで、今後策定する実施計画についての記述を行いたいと考えております。簡単でございますけれども、現在の進行状況についてのご説明ということでよろしくお願いたします。

○照井善耕委員長 今、教育振興基本計画の中間報告という形でご説明いただきましたが、何かご質問等ありましたらお願いします。

○役重眞喜子委員 計画期間の5年間というのは、総合教育会議で検討する教育大綱と整合させるのかというのが1つ、もう一つは基本方針で目指す「市の姿」というのがありますが、ここは前回の基本計画とは衣替えをして新しく定めたところだと思いますけれども、基本的な考え方についてお伺いしたいなど。「変化に対応し」という言葉があったり、「郷土を愛し」という言葉があったりというところで、バージョンアップしているのかという気がするのですが、10年も経っているのです市の教育の現状課題も変わってきます。どういところを踏まえて今回の計画の目標で一番ここを変えていくところだ、あるいは、ここは継続していくところだという考え方をお聞きしたいと思います。

○岩間裕子教育企画課長 まず、計画期間についてですけれども、現在の総合計画の中期プランの見直しが丁度、平成32年になっておりますので、そこまでを一つの期間ということで考えるということもあります。前の計画が9年間という長いスパンだったのですが、今回は国の動きというのがありますし、中期プランの見直し時期ということもあるので、今回は合わせるという考えで5年間と説明をさせていただいたところでございます。基本目標の部分ですけれども、大きな鉤括弧で括っている部分は、基本的には市の総合計画が目指している人づくり部分の目標を今回、教育大綱で市長の策定になる部分ということもありまして、現在人づくりの部分でコンセンサスが取れている大目標、これをそのまま持ってきてきたいということで、ここに大項目としては人づくりの分野の目標をそのまま掲げさせていただいているということでございます。下に少し小さめの文字で書いてある部分につきましては大項目をより具体的にイメージしやすいものとして市民に示す必要があるのではないかと検討会議の中で話が出まして、「変化に対応し」というのは今時代の動きが非常に激しくて、来年のことも今の状況とは違うということが多々あるということ踏まえ

まして、いろいろな変化に子供達も大人も対応していかなければならないということが求められているということで、その変化に対応できるということを持ってきたいなというのがありまして、冒頭に付けました。それから「丈夫な体と深い知性」という部分が「たくましく生き抜く強さ」というように表現をさせていただいたということと、「共感と思いやり」のところは「心豊かな市民」というイメージをどう表現するかということと、子供達の部分でははじめの問題がこの5年間でも大きな課題となってくるだろうということで考慮した方がいいのかなということもあり共感と思いやりの心という部分で記載をさせていただいております。ただ、これの部分につきましては、まだ現状での検討内容でございますのでこれから変わっていくとは思いますが現状ではそういう考えで、課長等による検討会議ではこの形でまとめさせていただいたということでございます。

○伊藤明子委員　こういう風に、子育て環境充実のまち、何々のまちと書くのはよく分かるのですが、今考え中だということですのでけれども、「例えば」ということを載せていただくと、市民の皆さんに分かっていただきやすいのではないかと思います。就学前プログラムとしても例えばこういう事だということ載せて分かっていただかないと、言葉自体は分かって、どういうことなのか分かりにくいんじゃないかなと思います。市役所の方々はそれなりの能力もお有りでしょうからこういう書き方でもお分かりかと思うのですが一般の市民といたしましてはできればこういう場合はこういうことだとお書きいただくとより分かりやすいんじゃないかと思いますので、そこのところをお話し合いをするときに考えていただければより分かりやすく、市民の皆さんにも浸透しやすいんじゃないかと。市の方だけで看板を掲げても市民に浸透しなければ何にもならないと思うので、そういう書き方をしていただくと、こういう時はこうすればよいか、ここの課長さんに相談に行けば良いとか分かり易くなっていれば、もっと浸透しやすいんじゃないかと。計画は計画だけれども、実行するためにはどうすればいいのかということも考えていただければ嬉しいなと思います。よろしくをお願いします。

○照井善耕委員長　市民の声に耳を傾けましょうと、その時点ではかなり具体的なことも出るけれどもそのままじゃうまくいかないからその後まとめていくわけだ。まとまったものだけ見るとせっきくの背景が見えなくなるので、そこら辺の工夫も上手くお願いします。

○岩間裕子教育企画課長　せっきくアンケートもとりましたので、アンケート結果を資料編の方にも残しておくとか考えてもいいのかなと今お話しをお伺いして思ったところです。

○伊藤明子委員　学校ですのか個人ですのか地域ですのかとか色んなことがあると思うんですね。だからそういうことも考えていただければいいのかなという風に。今は地域社会との関係も希薄になっているとも書いていますけれども、だったらどうすればいいかということもお示しいただければ分かり易いかなという風に思うんですね。今核家族だからどうしていいか分からなくてママカフェとかでやっている場合もあるので、それはそれで私は良い事だと思いますし、いろんな方とお話しするのは重要なことだとは思いますが

けれども、ただ、看板だけじゃなくて、看板を見たときにこうすればいいのかなというところを、分かり易い感じになればもっと浸透するんじゃないかという風に思います。失礼な言い方をさせていただくと計画倒れということじゃなく、分かり易くというのがいいと思いますのでよろしくお願いします。

○役重眞喜子委員 この市P連理事会構成員アンケートというのは市P連の理事会の人が書いたということですか。

○岩間裕子教育企画課長 結局、学校のPTAの会長さんから全部いただいています。

○役重眞喜子委員 各学校でPTAで話し合ってくださいということではなくて個人ということですか。

○岩間裕子教育企画課長 その取り組みは、PTAにお任せした部分もありますが、あまり時間が無い中でのお願いでもあったので会長さんや副会長さんのお考えの部分が強いと思います。

○中村弘樹委員 アンケートをたくさんとったと思うのですが、アンケートを反映させて基本計画を作るということですよ。結構いっぱいあるのですが、どこら辺に反映されるのでしょうか。

○岩間裕子教育企画課長 アンケートが今まとまってきているところなので、これからそれを分類して、これを落とし込める部分には落とし込んでいくという形で、まだ、アンケートの中身は生かしきれていない状態でお示ししております。

○佐藤勝教育長 まだ十分ではありませんが、見たところ課題視しているところについては、ほぼ同じだと思います。以前と比べるとメディア関係のこと、家庭環境に対する不安、地域の教育力の低下、基本的生活習慣についても地域の力を借りたいとか、それからやはり学力向上というようなことで、事務局で課題として重点化しなければいけないところとほぼ同じかだと思います。そして教育に限らず子育て全般ということですね。それから予想外だったのは思った以上に貧困、教育の貧困格差みたいな部分とか、土曜授業の取り組みについての提言とか、やはり地域の課題と全国的な教育課題が全部挙がってきていると。ただ、地域によって若干特性が違う気がしますがそれでも共通化するとだいたいそんな形になります。子ども子育て支援制度と同じように、今度はこれに取り組むべきことと取り組んでいる事業がぶら下がっていきますので、そういったところまで説明していかなければならないと思いますし、伊藤委員さんがおっしゃったように分かりやすく、特に用語ですね、イメージを具体的に与える手法、それから浸透させる手法と工夫でもっと分かりやすくしなければいけない。子どもが見てわかるようだと一番いいのですが。

○照井善耕委員長 学校と家庭と地域社会。今までのやり方というのは色々と情報収集はするけれども、まとめるのはとにかく行政でまとめると。本当はアンケートに答えるだけじゃなくて、「今、家ではこんな問題がある」「家庭って何をしたらいいんだろうね」という保護者のレベルでの話し合いが必要な感じがします。アンケートも、それぞれが主体となって、この大きな課題に取り組んでいるんだというところを作りながら行かないと、今までと同じようになり兼ねない。完璧でなくてもいいから、せめて方向だけでも皆で確認しながら、「家庭ではこういうことをやっぺいこう」「地域ではこういうことをやっぺいこう」「学校ではこういうことをやっぺいこう」、次の段階として学校でやることに地域で何か応援できることはないかと、地域のために学校が応援できることはないかと、作りながら進んでいく取り組みが必要ではないかと思ひます。

○伊藤明子委員 もうひとつよろしいでしょうか。今の委員長さんの話は素晴らしいと思ひているのですが、ただ、そこまで先生に負担をかけるというか、実際問題、忙しい中で先生がそこまでできるかどうか。私は子供にお金をかけるというのは大事なことだと思ひるので、例えば、退職した先生方とかをそういう立場に置いお話をできるという風に、そして学校とその方々が話をしたり、市でも話をしたりするという風なお金のかけ方のできるのでしょうか。今、先生方も非常に難しい、そして先程のアンケートを見て思ひたんですけれども、昔は先生に口答えをすると家で叱られたもんです。今は違ひますもんね。先生に対して命令口調でPTAの方々なんかがお話するというのも聞いているので、先生方もなかなか大変だと思ひますよね。クレマーもいらっしやるようだし、そうするとベテランの退職した先生の中で委員長さんの言ったことをやるようなお金のかけ方ができるのか、どうなんでしょうか。先生方も大変で「クラブもがんばれ」「勉強もがんばれ」といってもそこまでできるものかなとできればいいんですけどね、あまりにも負担が多くなって、今度はご自分の家庭が疎かになっても困るなど。そうすると退職した方にお願ひするとどうなのかと思ひたんです。実際、委員長さんや教育長さんは地域の子供さんに手をかけていらっしやるようですから。

○照井善耕委員長 やはり教員でも、学校にいれば教員だけど、家に帰れば地域の人であり、家庭の人ですので、そういうところできちんと役をもつて活動していることだなど。そういう意味でお互い要求しあう関係じゃなくて、むしろお互いの立場を尊重しながら自分として地域のためにできること、教育を考へる時にそういう発想が必要じゃないかな。

○伊藤明子委員 でもそこまでのレベルでしょうか。先生方って。

○照井善耕委員長 教育を退職したからそこにいるのではなくて、元々地域の人で学校の先生だったのが、学校の先生の部分が取れて地域の人として活動する。だけれども、単に地域の人ではなくて学校での経験もある地域の人として対応できる部分もあるのではないかなど。そういう意味で私も伊藤委員と同じように先生ががんばればとか地域ががんばればということではなくて、経験を踏まえてそれぞれができることを、点検する関係を作つて

いかないと。要望するだけだと学校にこうやってほしい、市にこうやってほしいとか要望だけの寄せ集めになるととても対応できなくなってしまうから。

○伊藤明子委員 ただ、今のアンケートを拝見していると、何となくそういう感じがしなくもないかなと思ひ少し心配になったので。

○佐藤勝教育長 貴重なご意見だと思います。最後はやはりマンパワーだなというのは分かります。最近校長会でも何回か協議を重ねていて、本音でお話を聞くようになっていましたし、国が求めている「チーム学校」という考え方、基本は学校と地域、市民という感覚で市民の中に教育も入る、元教員も入るということで、やはり学校を経営する場合の学校のマネジメントの中で求める学校像なり地域像なりを共有するための共通理解と、それを具体化する手法と、そここのところが一番大事だと思いますよ。それをやらないと、いつまでも学校は学校、先生は先生、家は家ということになりますので今回の計画の中にも今度の新しい国が進めている教育改革、あるいは指導要領の中身のいろんなマネジメントの部分が大部分はいつていると思います。だからといって全く新しいものではなくて、今やっていること、あるいはやらなければいけないこと、そういったものを充実させるという方向でやっていければと思います。例えば、具体的に言えば、来年度は2つぐらいの学校で地域を巻き込んだ学校づくりをとということを構想しています。実際は、どこの学校でも地域を巻き込んで一緒にやっているのですが、ただ、課題とすると27コミュニティ、コミュニティは基本的には社会教育の基本。その機能と、学校、保育園、幼稚園、そこがどう結びついていくかということ。こうしなさいあしなさいということではなくて、自発的にやっていくことを後押ししていくというやり方でないと上手く進まない。

○役重眞喜子委員 今のお話と関連するんですけど、学校は十分頑張っていると思うんですけど、一番問題は草の根で、地域がばらばらになってきていると。そこなんです全ては。それは一朝一夕にはなかなかできないことですが、花巻は生涯学習の部分がだんだん薄くなってきているのがすごく気になってきていて、27のコミュニティもいいんですけど、生涯学習というと草の根の自治公民館活動であったり、自治会であったり、町内会のお祭りであったり、草刈とか若い親も、いくら眠くても嫌でも出てこいと。そういうのがあって初めて地域は繋がるし、子どもの顔も見えるんですよ、なので、コミュニティというところちょっと上目線なんですね。住民から見るとコミュニティは雲の上なんですよ。やはり自治公民館、自治会、そういったところに子供以前に親が参加しろと、地域もがんばれと、そこに市も応援するよというところを教育の基本でどこかに謳ってもらいたいなという思ひです。

○照井善耕委員長 まさにそうだと思いますね。一緒に汗を流したり、そういうのがないと。ほとんどの場合は、まだ動けるから地域で活動よりもまなび（学園）に行つて何とか講座を受けている方が良いとつて、地域から有望な方々が抜けて行つてしまうんですよ。趣味の世界を持つことも良いんだけど、地域の住民だという辺りでつながらること

が大事にしたいですね。今の市民一斉清掃もいいと思うんです。どこからも出ましようということを出て、その中でしゃべったりしながらああいう雰囲気っていいなと。あとひとつ気になるのが「変化に対応し」というところですが、いっぱい変化している、それを落ち着いて、どういう変化かよく見て、それが本質的に何と関係しながら変化しているのか、そこを捉えながらいかないと、国の政策が変わる度に地域も根を張る暇もなく揺れ動くだけです。変化に対応することは大事ですけどそれは、ただ対応するのではなくてきちんと捉えて本来どうあるべきかという対応を皆で考えてやっていかないと。

○役重眞喜子委員 「変化に対応し」という言葉がちょっと気になるんです。悪い訳ではないんですけど。一方で変化に対応しないことも教育の本質でもあるんです。そこをきちんと、今後ともありえるのであればこういう変化にということを説明できるようになっていないと。ということで先程質問したところでした。

○伊藤明子委員 だから役所の方はお分かりになっても、受け止める市民はどのような風に受け止めるのかなということを考えていただけたらいいと思いますけど。分かりやすく行動しやすくということを第一に考えていただければということを申し上げた気がします。

○中村弘樹委員 話し合いをして良いものが出来ると思うのですが、アンケートに書いてるように、この計画がどのくらい浸透するのか、どのくらい知ってもらえるかということも出来上がったと同時に大事になってくると思うのですが、そこはどのように。

○岩間裕子教育企画課長 出来上がった後なんですけれども、子ども子育て支援計画のように、広報を使って、教育大綱もあるので、併せて周知することは、今までやっていないのですが、それはやっていこうと思っていましたし、もうひとつはホームページの改修を来年度きちんと取り組みたいというのが課で考えていまして、ただ、それでは十分浸透するかと言われると弱いと思うので、本来であれば、出前講座的に歩くべきなのだと思いますけれども、まだそこまで出来るという自信がないです。

○照井善耕委員長 100パーセント目指す姿で作る計画にするのか、3割4割ぐらいで方向性だけは確認しながら、実行しながら修正していく計画にしていくのか、よっぽど考えないと。例えば学校でいうと、教務主任が一生懸命計画を立てて皆に提案して、それからいちいち基本的なことまで説明しないと前に進まないという。昔はそうだった。今はそうじゃなくて方向性を示してやりながら、何故やりながらかということの目に前に子供がいるから計画できるまで待っているそんなこと言えないからね。方向だけ確認しながら育てていく計画とかね。市民もそうでないと、多様な価値観をもっている市民がいる中できちんと仕上がってからやりますと、説明したとたんに別な方向に行ってなんだかんだなり兼ねないよ。

○岩間裕子教育企画課長 来年度は再編の関係で中学校学区単位でワークショップではな

いですけど出向いて事業をやろうとしているので、その際にこのことについても触れながら、目指す姿と再編のあり方が被るようなことでの説明的なことというのが、機会としては無い訳ではないんだろうなと思っています。再編だけが動くわけではなくて基本になる考え方はこの計画に示されていることですよということを示してご説明していくということができるのかなと思っています。

○照井善耕委員長 今まで取り組んできたことや今実際にある中でその視点から計画を見たときに、もうひと工夫入れると次のレベルまでいけるところをしっかりと捉えて、あとここをこうすればと言った時に市民がそうだそうだと言いやすくなるような形でやった方がいい。それはいわゆる完璧に計画をつくるのではなくて、今やっていることの価値を見出しながら意味づけをしながら、更にこの5年間でこういう風に進んでいきたいと思いますという形になっていくと。他にございませんでしょうか。まず中間ということなので我々も改めてアンケートの中身に目を通して気づいたことがあれば事務局に連絡をして進めていくということによろしいでしょうか。それでは本件については質疑を終結します。他に報告事項ございますか。

○鈴木和志教育企画課長補佐

文化祭の予定の資料を配布いたしました。今日始まっているところもありましたけれども、今日明日と集中しておりましたので、参考としていただきますよう小中学校から提供いただいておりますのでよろしくお願いいたします。

○照井善耕委員長

それでは本日の議事日程はすべて終了しました。本日の教育委員会議はこれをもって閉会といたします。ありがとうございました。